

3 教師自ら学習指導を振り返る

自己評価活動は、子どもだけではなくて、教師自身も自らの取組を次のような項目を設けて自己・相互評価し、次の学習指導に生かしている。

	学校での取組（評価の具体策）	家庭教育への支援（評価の具体策）
読み	(1年) 音読の発表の場を設定する。 (2年) 個別に質、量がどれだけ伸びたかを評価する。 (3年) 速さ、声の大きさ、他人が聞いても理解できるような読み方をしているかを評価する。 (4年) 授業時間、読書タイムによる読みの実態把握を行う。親子読書における読書日数の把握及び目標設定を行う。 (5年) 国語学習、読書タイムにおける実態把握を行う。親子読書カレンダーにおける日数の把握を行う。 (6年) 授業時間における読みの実態把握を行う。親子読書カレンダーにおける日数の把握を行う。	(1年) 学校へ読書カードを提出させ、チェックして返す。 (2年) 毎月カードをチェックする。生活ノートでチェックする。 (3年) 親子読書カードによるがんばり度を調査する。 (4年) 読書カードによる書名、日数の確認及び目標設定を行う。 (5年) カレンダーにおける読書日数の把握を行う。 (6年) カレンダーにおける読書日数の把握を行う。
書き	(1年) 止め、はね、はらいまでていねいに添え書きをする。 (2年) 文章の書き方、正しい文字の書き方をノートやプリントつづりを見て評価する。 (3年) 国語ノート、日記帳、漢字ノート等により実態把握する。 (4年) 漢字力テストにおけるチェック表を活用する。国語・漢字ノートの実態把握（誤字、脱字等のチェック）を行う。 (5年) 漢字力テストを集計し活用する。学習ノートの実態を把握する。 (6年) 漢字力テストにおけるチェック表を活用する。	(1年) 学校へ視写ノートやプリントを提出させ、チェックして返す。 (2年) 毎日ノートをチェックする。間違いをそのままにしないようにする。 (3年) 漢字テストやノート等によって点検し、実態把握に努める。 (4年) 漢字ノート、国語ノートの状況及び保護者のチェックの確認をする。 (5年) 漢字力テストを有効に活用する。 (6年) 漢字テストやノートを点検し、実態把握に努める。
算	(1年) 定期的に小テストを実施する。 (2年) 速さと正確さで個別に指導する。 (3年) 個別の記録で評価する。 (4年) 計算力テストの通過率と時間を記録し、計算力の向上を把握する。 (5年) 計算力テストを活用し、算数ノートの実態把握を行う。 (6年) 計算力テストの通過率と時間を記録し、計算力の向上を把握する。	(1年) 学校への復習プリントや計算ドリルを提出させ、チェックして返す。 (2年) つまずきを見つける。 (3年) 計算力テスト・ミニテストなどによる実態を把握する。同じ間違いをしないための徹底復習を行う。 (4年) 計算力テスト問題用紙を確認する。チェック表による通過率と時間を把握する。 (5年) 毎日の家庭学習をチェックする。 (6年) 計算ドリルで間違った部分の個別指導を行う。

4 取材を終えて

「教師自らが、自分の学習指導を振り返る評価活動は、自分たちの指導に責任をもつということではないかと思っています。」という学校長の言葉が印象的であった。教師自らが評価の具体策に基づいて、学力向上のための取組を振り返り、改善点を明らかにし、次の活動に生かしていく姿こそが、指導に責任をもつという意味だと思う。学校全体で、子どもの自己評価とともに教師自身も自己・相互評価に取り組む阿久根市立山下小学校に学習指導と評価の一体化の具体的な在り方を学ばせていただいた。